

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第6陣

訪問日程 平成25年9月23日（月）～9月30日（月）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第6陣計60名が、9月23日から9月30日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：王秀雲（オウ・シュウウン）中国日本友好協会・副会長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の大学生との交流をはじめとしたプログラムのほか、企業視察、伝統文化体験、地域見学等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

9月23日（月）

成田空港着、オリエンテーション

9月24日（火）

皇居二重橋見学、外務省訪問・日本文化に関するセミナー、
国会議事堂視察、東京タワー見学、歓迎会

9月25日（水）

○第1グループ（医学）

東京女子医科大学訪問・交流、企業視察（テルモ㈱メディカルプラネックス）

○第2グループ（日本語）

企業視察（昭和電工㈱川崎事業所）、横浜市立大学訪問・交流

9月26日（木）

兵庫県へ移動、兵庫県政の説明、和風温泉旅館で日本文化体験

9月27日（金）

○第1グループ（医学）

神戸大学医学部訪問・交流、神戸医療産業都市視察

○第2グループ（日本語）

神戸市外国語大学訪問・交流、神戸市環境局港島クリーンセンター視察

9月28日（土）

北野異人館街見学、日本文化体験（北野工房のまち）、
人と防災未来センター視察、京都府へ移動

9月29日（日）

金閣寺、嵐山、天龍寺見学、大阪府へ移動、
商業施設視察、歓送報告会

9月30日（月）

関西空港より帰国

3 写真

	
9月24日 皇居二重橋見学 (東京都)	9月24日 梶谷真司東京大学准教授による日本文化に関するセミナー (東京都)
9月24日 参观皇居二重桥 (東京都)	9月24日 东京大学梶谷真司副教授作关于日本文化的讲座 (東京都)
	
9月24日 梶谷真司東京大学准教授による日本文化に関するセミナー 質疑応答 (東京都)	9月24日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長の挨拶 (東京都)
9月24日 东京大学梶谷真司副教授作关于日本文化的讲座 答疑 (東京都)	9月24日 日中友好会館江田五月会长在欢迎会上致辞 (東京都)
	
9月24日 歓迎会 下川真樹太外務省アジア大洋州局参事官 (右) と王秀雲団長 (左) (東京都)	9月24日 歓迎会 パフォーマンスを披露する団員 (東京都)
9月24日 欢迎会 外务省亚洲大洋州局下川真樹太参事官 (右) 和王秀云团长 (左) (東京都)	9月24日 欢迎会 团员在表演节目 (東京都)

	
9月25日 先端生命医科学研究所施設視察（東京都）	9月25日 東京女子医科大学訪問・交流（東京都）
9月25日 考察先端生命医科学研究所施設（東京都）	9月25日 訪問東京女子医科大学 交流会（東京都）
	
9月25日 テルモメディカルプラネックス視察（神奈川県）	9月25日 昭和電工株式会社川崎事業所視察（神奈川県）
9月25日 考察泰尔茂综合医疗培训设施（神奈川県）	9月25日 考察昭和电工株式会社川崎事业所（神奈川県）
	
9月25日 横浜市立大学訪問・交流（神奈川県）	9月26日 兵庫県表敬訪問（兵庫県）
9月25日 訪問横浜市立大学 交流会（神奈川県）	9月26日 拜访兵库县政府（兵库县）

	
9月26日 兵庫県政の説明 質疑応答（兵庫県）	9月27日 神戸大学医学部訪問 施設見学（兵庫県神戸市）
9月26日 兵庫县政府講座 答疑（兵庫県）	9月27日 访问神戸大学医学系，参观校内设施（兵庫県神戸市）
	
9月27日 神戸市医療産業都市視察（兵庫県神戸市）	9月27日 神戸市外国語大学訪問・交流（兵庫県神戸市）
9月27日 考察神戸医疗产业城市（兵庫県神戸市）	9月27日 访问神戸市外国语大学 交流会（兵庫県神戸市）
	
9月27日 神戸市外国語大学訪問・交流（兵庫県神戸市）	9月27日 神戸市環境局港島クリーンセンター視察（兵庫県神戸市）
9月27日 访问神戸市外国语大学 交流会（兵庫県神戸市）	9月27日 考察神戸市环境局港岛清洁中心（兵庫県神戸市）

	
9月27日 日本食文化体験 (兵庫県)	9月28日 日本伝統文化体験 (兵庫県)
9月27日 体験日本飲食文化(兵庫県)	9月28日 体験日本传统文化(兵庫県)
	
9月28日 人と防災未来センター視察 (兵庫県)	9月29日 金閣寺見学(京都市)
9月28日 考察人与防災未来中心(兵庫県)	9月29日 参观金阁寺(京都市)
	
9月29日 嵐山、周恩来元首相の詩碑見学(京都市)	9月29日 歓送報告会 訪日成果報告(大阪市)
9月29日 参观岚山和周恩来总理诗碑(京都市)	9月29日 在欢送报告会上汇报访日成果(大阪市)

4 参加者の感想（抜粋）

【第1グループ】

○ 今回の中日大学生交流活動に参加することができて、とても光栄である。この活動では、日本文化への理解という視点からだけでなく、日本医学の専門分野においても大きな収穫を得ることができた。文化交流の面では、外務省訪問、国会見学、日本文化に関するセミナー、防災や復興に関する展示といった内容が盛り込まれ、日本の政治、経済、文化などについて基本的な理解を得ることができた。それ以外に、私が多くの感慨を覚えたのが、日本の礼節文化であった。中国でも日本人の礼儀正しさについて見聞きしたことはあったが、実際に触れてみて本当にそうだと分かり、日本の人たちが、誰に対しても真摯に、謙虚に交流する姿に敬服した。日本では、あちこちで他者を尊敬し、友好的に接するのを感じた。このような熱心で友好的な対応を受けるうちに、私の日本観も大きく変わっていった。そして、もっと理性的に、真の姿に基づいてこの国を見るべきだと思い、日本に対してすばらしさや温かさといったイメージを持つようになった。

医学交流の面では、私たちは医療系大学を二校、日本最先端の医療系企業と神戸医療産業都市を訪問し、交流を行った。最初の訪問校である東京女子医科大学では、開始早々この大学の医学研究の先進性と開発応用力に驚かされた。日本は医学分野の科学研究は、確かに世界の最先端レベルだと思う。そして、これら国内の先端科学技術力によって、基礎科学の研究成果を臨床に応用し、真に患者のために役立てているのである。しかもこのような医学的循環ルートが神戸で躍動的に発展し続けているのを見て、これも中国が早急に参考にし改善すべき点だと感じた。この他に最も印象深かったのが、テルモメディカルプラネックスの訪問だ。この企業が最先端の製造技術を持つこと以外に、私が一番驚きすばらしいと思ったのは、彼らが真に医療従事者や患者のことを考え、医療従事者が日頃肌で感じている事柄に基づいて改良を続け、常にベストを目指し、医療行為の便宜を図り、患者の苦痛を改善しようとしていることだ。こうした「人にやさしい」考え方は、医学分野で働く人全てが考え、実践すべきだと思う。

今回の訪問で、日本に対するイメージや態度は大きく変わった。ここで見聞きしたことを周りの人たちとありのままに分ち合い、彼らが日本をもっと客観的に評価できるように、それから、ぜひ日本を体験してみるよう勧めたい。ここに来れば、誰もが日本に対して全く新しいプラスの認識を持つようになると信じている。

○ 今回の訪問で一番印象的だったのは、日本人の細やかさと周到さである。また、仕事の効率が大変よく、仕事に向き合う姿勢も非常に真摯なことだ。災害や困難に直面して粘り強く団結する。危機意識、環境や伝統文化を守ろうとする意識を持ち、何かをやろうとする時にはベストを目指して努力するという精神も持ち合わせている。

まず、細やかさと周到さという点だが、これは訪日スケジュールを見ればすぐに分かる。私たちが東京に到着したばかりの時、日本側は、午後もプログラムがあるのに機内食だけでは足りないだろうと、気を遣ってパンとミネラルウォーターを用意してくれていた。もちろんこれは些細な一例で、似たような出来事はたくさんあった。例えば、プレゼント、記念写真、バースデーサプライズ、それに日々の詳細な説明や注意事項の伝達など、いつもタイミングよく気配りをしている。テルモメディカルプラネックスを訪

問した時など、帰るときには見学前に撮った写真が綺麗に装丁されて手渡された。このような真摯な心配りはもちろんだが、仕事の効率の良さは学ぶべき価値があると思う。それから、神戸を訪れ、阪神淡路大震災から 15 年を経てすっかり復興を果たした神戸を見ることができた。そして人と防災未来センターを見学し、神戸の人々が災害に直面した時に見せた強さと、故郷復興への強い団結力を目の当たりにして、日本人の強い危機意識をさらに実感したのである。中国には古くから「憂患に生じて安楽に死する」という言葉があるが、危機意識を持つ国として日本は非凡であることが運命づけられている。だから復興という点でも、15 年が長すぎるなら、7 日目に訪れた嵐山を見ればすぐ分かる。洪水被害からまだ一週間しか経っていないのに、普段通りの、清潔で美しい嵐山の姿を私たちに見せてくれた。このような復興の力は、まさに私たちが学び、敬意を払わねばならないものだと思う。最後に、環境保護に関しては、多くを語るまい。道の清潔さやごみの分別は言うまでもなく、クールビズの推奨といったことから見て取ることができる。また、京都が文化財保護のために制定した建築規制に関する一連の政策には、日本の強い文化財保護意識が表れている。

今回の訪問で私は、真面目で、気配りがあり、強くて、友好的な日本という国を体感した。そして、互いに交流し学びあう価値のある日本を感じることもできた。このような体験の機会に恵まれ、とても光栄に思っている。

○ 今回の訪問を通じて、大変印象深い出来事がいくつかあった。

まずは、日々同行してくれたスタッフの仕事ぶりが気配りに富んでいて、非常に細やかだったということだ。この細やかな心配りは学校交流の場でも発揮された。交流に参加する私たちの専門や学年が異なっていたため、学術的にも交流相手とのギャップが生じてしまう。しかし、日本側スタッフは同学年同士で交流の場を設定し、そのギャップを極力抑えるようにしてくれたのだ。こんなところからも、日本人の真摯に仕事に向き合う姿勢を感じ取ることができた。

また、兵庫県を訪れた時には、震災後の復興に対する日本人の考え方や復興計画を学ぶことができた。短い歳月で自分たちの故郷を物質的、経済的に復興させただけでなく、人々の心までも立ち直らせたことは称賛に値する。しかもその後、人と防災未来センターのような施設を作り、国民の防災意識と災害への備えを強化している。このことから、日本人は総括に長け、不屈の精神を持っていることが分かるだろう。

今回の日本訪問中に、心に響いたことはとてもたくさんあった。どれもみな私たちが参考にし、学ぶべき価値のあるもので、中国でメディアを通じて理解していたこととは違っていた。「聞いたこと」だけではとても十分とは言えない。やはり自分自身で体験しなければ、ものを言う資格はないのである。帰国する時には、ここで目にしたプラスのエネルギーを持ち帰りたい。そして中国の友達と共有し、両国の友好を促進し、今を生きる大学生としての責任を果たしたい。そして機会があれば、この美しく、伝統ある、中国とはるか昔から関係を持つ日本という国を、また訪れてみたい。

○ 今回の訪問で印象深かったのは次の四点である。

1. 日本人の思いやりと心配り

日本のスタッフが組んでくれたスケジュールはとてもよく準備されており、「精確」という言葉で形容してもいいほどだった。時間はもちろん訪問スケジュールも完璧で、私たちは限られた時間の中で最大限の「宝」を手に入れることができた。スタッフはもちろんのこと、他の日本人も同じように思いやりや心配りを見せてくれた。例えば、街中では皆人が通れるよう工夫して道をあけたり、行きたい場所を尋ねると、いつも一生懸命教えてくれようとした。言葉は通じなくても、誰も助ける人がいなければ、私たち以上に焦った様子で奔走してくれた…。こういったことに深く感動している。

2. 日本人の環境保護意識と長期的な展望

私の家族や友人は、皆日本での生活経験がある。来日前に、彼らから日本では非常によく環境保護事業がなされていると聞いてはいた。今回ここへ来て、自分自身で体験してみても、やはり心が動かされ、すごいと感心した。ごみの分別、住民の環境事業への理解と協力、科学者や技術者の巧みな資源開発とその利用、街で随所に見られるソーラーシステム、清潔できれいな環境、青々とした空と海、すべて進んだ環境事業の証であり、私たちが学ぶに値するものだと思う。

3. 温かみのある日本の学術環境と人々の創造力

日本にはノーベル賞を受賞した科学者がたくさんいる。これは日本人の卓越した創造力と良好な学術環境なしにはあり得ない。今回大学や先端医療の企業を見学したが、自らその場に身を置いたことで、学術的な日本を感じることができた。このような日本はとても魅力的であり、機会があれば、日本に留学し造詣を深めたい。

4. 日本人の経験を活かし未来を切り開く能力

今回の日本訪問の旅で、人と防災未来センターを見学したのだが、そこで私は嘆き、感動し、心動かされ、なおかつ感心させられた。災害の無情さ、あれほど多くの罪のない人々の命が奪われたことを嘆き、支えあう人々の姿や人類が手を取り合って災害に立ち向かう姿、そして復興への尽きることのないエネルギーに感動し、日本人がこれほど短い間に復興を果たし、さらに堅固な科学都市を建設したことに心動かされ、そしてまたこれらの経験をよく総括し、世界の人々に示すことで、人類の防災・減災事業に大きく貢献していることに感心させられたのである。

最後に、今回の訪問に参加できたことに感謝している。これほど多くの貴重な収穫を得ることができ、ここで 22 歳の誕生日を迎え、こんなにたくさんの人に祝ってもらえて、自分は本当に幸せだと思う。いつの日か自分の力で中日友好に貢献したい。

○ 深く心に残ったことは、「日本人が知識と向き合う姿は、誇りを持ちつつも誠実である」ということだ。どの大学でも、彼らは自らの長所について語る時に非常に誇らし気だ。これは素晴らしく、しかもその表現のし方が絶妙なのである。ゆるぎない自信を持ちながらも得意がることはない。同時に自らの短所については誠実に認め、皆でそれを解決していかなければならないと言う。真摯でありながらも卑屈ではない。こうした知識に向かい合う態度に、私は誠実なものを感じた。

では、なぜこのことに大きく心打たれたのか。こうした現象は何も日本に限ったことではなく、当然中国にもあることで、人々も友好的だし、中国文化も豊かで、常に進歩

し続けている。私が心打たれた一番大きな理由は、自分の体験した生の日本と、想像していた、あるいは書物の中だけにある日本は違うと感じたからだ。だから、私は自分が肌で感じた日本の人々の友情を家族や仲の良い友達に伝えたい。自分が目にした日本の人々の自信をきちんと伝えたい。もちろん自分の先生やクラスメートにも。

最後に、私は日本人が真摯で誠実であることを他の人たちにも知ってほしいと思う。経済が発展しても、打ち解けた人文文化というのは多くの人々が忘れてしまいがちだ。私は家族や友達に、自分が日本で感じた人々の真面目さ、善良さを何とか頑張って訴えていきたい。

○ この活動に参加する前は、日本や日本人についてのわずかな理解はメディア報道によるものだけで、とても偏っていた。日本人の厳密な仕事ぶり、時間厳守、災害への意識の高さについてこれまでも聞いたことはあったが、実際に体験したわけではなく、よく分かっていなかった。参加して、日本人の親切で友好的な態度、きめ細かく周到なおもてなし、厳密な仕事ぶりなどをこの目で見て、全く新しい、向上心に富んだ日本を知ることができた。

今回、東京女子医科大学、テルモメディカルプラネックス、神戸大学医学部、神戸医療産業都市を訪問し、教授の教えを伺ったり、学生の学習環境を見学し、学生達と交流したり、実際に日本の医療産業施設を視察して、視野が広がった。また、日本の学生と理解しあうことができ、今後もっと深く付き合うためのきっかけができた。神戸大学医学部の交流では、研究分野は違うものの、中医に強い興味を示す学生もいて、中医文化を日本の皆さんに紹介することができてよかった。テルモメディカルプラネックスや神戸医療産業都市では、医療産業の進歩に関して、書物では得られない多くの知識が得られて、本当に勉強になった。

○ 最初の夜、ホテルにチェックインして部屋のテーブルの上に素敵な心温まるプレゼントを見つけてから、私の心はすぐに友好的で純朴なこの国の雰囲気に入れ込み始めた。日本には来たことがなく、この国に対して持っていたのは、歴史上の「非友好」というイメージだけだった。でも私は、多くの人たちがこの「非友好」の雰囲気をなくすために一生懸命頑張っているのだ、ということに徐々に気づき始めた。去り際に手を振ってくれたり、見知らぬ私たちにも熱心に道を教えてくれたり、歓送会でバースデーサプライズを用意してくれたり、この国の雰囲気はこんなにも純朴なのである。また、人と防災未来センターでは、かつて自分たちが経験したあまりにも多くの教訓を総括し、死者を悼む気持ちと生き残った人たちの復興への真摯な心を感じることができた。さらに、生き生きとした詳細な解説に、この国の深い友好的な気持ちを汲み取ることができた。彼らの人文理念、環境意識といったものは、いずれも私たちに欠けているものだ。今後私は友人や家族に、日本も私たちと同様に善良で友好的な人たちがいる所だということを伝えたい。私たちは偏った報道によって日本を誤解してはならない。中日両国の友情は、双方にとって利益こそあれ害になることなどないのだから。今後もここで自分が見聞きしたことを生かして、この友情をもっと強くしていきたい。

【第2グループ】

○ 最初は、日本人の生活は忙しくて殺伐としているんだろうと思っていた。でも、訪日を終えて、日本人はとても友好的で、温かくて真心があり、忙しくてもきちんとした生活習慣を維持できていると思うようになった。これは学ぶに値することだと思う。

- ① 日本の市立大学を訪問して、市立大学は市民の学問への要望を受け、全市民に学びの場を提供する役割を果たしていることが分かった。また、日本の大学は学生の自主性を尊重し、有意義なサークル活動が数多く行われているということも知った。
- ② 人と防災未来センターの見学では、日本民族の芯の強さと粘り強さ、人々の気概と支えあう精神を理解することができた。
- ③ 日本の温泉体験では、日本人の生活に対する細やかな心遣いと自然と調和する精神を感じる事ができた。
- ④ 日本の大学生との交流では、「クールジャパン」とは何かが体感できた。そして、日本の活力と情熱を感じた。

○ 今回訪日の機会を与えられ、とても光栄に思う。日本と中国は地理的にも一衣帯水、古くから盛んに交流し、お互い学びあってきた。そのため似たような文化的背景を持っている。現在政治的要因によって中日両国の関係は緊張が続いているが、両国人民は友好関係の前進を熱望している。このような歴史的、時代的背景の中で訪日できたことを光栄に思っている。

8日間の滞在の中で、最も印象深かったのは、横浜市立大学と神戸市外国語大学の訪問だった。大学生は国の未来であるため、中日友好発展の重い責任を背負うことになる。横浜市立大学では、私たち学生は6グループに分かれて学校生活をテーマに交流を行い、中日友好をどう発展させるかを巡っても熱い討論を展開した。中日双方の学生の回答を聞くと、双方とも両国の友好の発展を熱望していることが分かった。それから、神戸市外国語大学を訪問し、私たちは、中国語を専攻する日本の学生と印象深い交流を行った。短時間であるにもかかわらず、皆すぐに友達になり、最後にお互い別れを惜しむ場面は本当に感動的だった。ここでも中日両国の友好発展が両国人民共通の願いであることが分かったのである。だから、両国の関係はきっとこの膠着状態を打破して友好を発展させることができると信じている。

明日はいよいよ帰国となった。短い8日間ではあったけれど、間違いなく私たちの中に大きなものが生まれた。帰国したら日本の魅力を友達に伝えたい。近代的な東京、横浜の自然の美しさ、神戸の人々の防災意識、古都京都の優美さ、大阪の海、日本人の環境保護意識、さらに親切な日本人の人々などを友達に伝え、分かち合いたい。そして、機会があれば彼らを誘って一緒にまた日本を体験してみたい。そうすることで中日友好の発展に少しでも貢献できたらと思っている。中日両国の友情が永遠に続くことを心より願っている。

○ 今回幸運にも中国大学生訪日団の一員として、日本で忘れられない素晴らしい一週間を過ごすことができた。この上ない幸せを感じている。団体での訪問・見学でも、自

由行動でも、私はカメラによる記録ではなく、ペンでその時々感想を書き綴った。そのほうが、自分の心に一生忘れることのない日本での一つ一つの思い出が刻まれるから。

人と防災未来センターで過ごした数時間は強く心に残った。ここでは、映像と展示で1995年の阪神淡路大震災発生時の状況を再現していた。万単位の日本の人々が家族や家を失ってしまうあの場面に、私は戦慄を覚えた。自然災害を前にして、まるで自分自身がちっぽけな人類そのものになったように感じた。特に大震災を経験された83歳の老婦人が、人々の防災意識を高めるためにボランティアで体験談を話されるのを聞いた時、その場において胸を打たれなかった者はいなかった。地震は数えきれないほど多くの尊い命を奪い取ったが、引き換えに、人々は防災意識を強くし、耐震技術を向上させることに一層努力するようになった。センターのスタッフが広めようとしている防災知識のきめ細やかさには本当に感心させられ、とても勉強になった。センターから出て外を見ると、すっかり近代化されて美しくそびえる神戸の街並みが目に入った。神戸の人々の力強い意志に思わずため息が漏れ、何倍も勇気づけられるような気がした。

街でもホテルのフロントでも、道を聞くたびに、いつも日本人の友好的で親切な対応を感じることができた。私の日本語レベルを褒めながらも、分からないのではと心配なのか、目的地まで連れて行ってくれるその姿に、こんな思いを持った。政治的には中日両国は氷河期にあるけれど、両国民の心のこもった往来は絶対終わらない、どうか永遠に続きますように！と。

○ 白居易の詩に「空闊として江山遠く、清明にして天気好し」という一節がある。これはまさに日本に到着して空港に降り立ったとき真っ先に受けた印象である。日本の環境とインフラ建設が成し遂げた成果というのが、私の中で間違いなく一番印象に残ったことである。日本では、60年代から70年代にかけての高度経済成長期に、経済優先で環境がひどく汚染されたことがあったそうだ。しかし、たった数十年で状況がすっかり変わり、先進国としての環境の良さと国民生活の質の高さを世界に誇れるまでになったのである。もちろんこの間、社会の高齢化、新エネルギーの開発と有効利用などという新たな課題もまた次々に出てきていることも間違いない。中国と日本は同じアジアに属し、生活習慣や価値観、文化などの面で似ている点がたくさんある。日本がアジア唯一の先進国として直面してきた問題は、私たちも今後直面する、あるいはすでに直面している問題なのかもしれない。だから、日本が環境汚染問題を克服してきた経験と教訓を学ぶことにより、私たちが課題解決を考える上で、ある程度のヒントが得られるのではないかと思う。中国はGDPですでに日本を追い越した。でも、中国は今まさに経済の転換期を迎えており、日本に学ばなければならないことがまだまだ多い。もちろん私たちは、学ぶと同時にそれをただむやみに真似て当てはめるのではなく、中国の国情と結び付けていく必要がある。例えば、ごみの分別などは日本では全国民が義務教育を受けているという基礎の上に成り立つシステムであるし、国土面積も小さく、ごみの処理量も少なくて済むという客観的背景も考えなければならない。一方、中国は国民の識字率が未だに100%に達しておらず、しかも広大な国土とあっては、建設しなければならない高性能で費用のかかる分別ステーションはさらに多くなるだろう。こうしてみると、中国が環境、エネルギー、インフラ整備といった分野で直面する課題はさらに厳しいも

のであり、これらを解決するためには、中日両国の専門家、民間人、経済組織や団体が、学術、文化、経済交流をさらに強化していかなければならないことが分かるだろう。政治もここに重点を置き、さらに広い視野から生活環境をよりよくするために絶えず努力していく必要があると思う。

○ 今回の訪問を通じて、私が強く印象に残った出来事が二つある。一つ目は、私たちは街に出てショッピング巡りなどでいつも道に迷ったのだが、そこで道を尋ねたら、みんなとても熱心に助けてくれたということである。あれは確か初めて地下鉄に乗った時のことだった。私たちは一体何線に乗れば目的地に行けるのか、全く分からなくなってしまった。メンバーの一人が日本の若者に尋ねてみた。その時、彼はとても一生懸命教えてくれた。しかも私たちだけでは分からないだろうと、乗り場まで連れて行ゆき、もう大丈夫だと確認してから自分の乗車場所まで戻っていったのだ。これにはとても感激した。一人の若者が、わざわざ自分の時間を割いてまで、見ず知らずの外国人を連れて、地下鉄駅の構内を大移動してくれたのである。私たちはただ「ありがとうございます」を連発することしかできなかったが、心はとてもとても温かかった。

二つ目は、ゲームセンターだ。日本では普通の店内のゲームセンターも、温泉旅館内のゲームセンターも、そこは子供専用エリアではないことに気がついた。そこで見たのは、さまざまな年齢層のお客さんが本当に楽しそうに遊ぶ姿だった。日本では、もともと遊びは子供の専売特許ではなくて、日本人はずっと童心を持ち続けているかのようだ。あらゆる場所が童話の世界の雰囲気にあふれている。日本は愛すべき国、そして日本人もまた愛すべき人々なのだ。

帰国したら、私は周りの人に、日本人はとても親切で、友好的で、礼儀正しいと伝えたい。そして、日本で困った時も心配無用、安心して、勇気を出して周りに助けを求めれば、彼らはきっと想像以上の真剣さで親切に助けてくれ、きっと感動するはずだと。また、日本はとても静かな国で、感じたことのない安らぎと心地よさを感じることができると。日本で最もよく耳にする言葉は「すみません」である。日本人はとても礼儀正しく、いつでも注意を払って、できるだけ他人に迷惑をかけないようにしている。できれば、今度は家族と一緒に日本を訪れ、愛すべき日本人を家族と一緒に体感してみたい。

○ 以前の日本人に対するイメージといえば、「清潔、礼儀正しい、堅苦しく真面目」といった範囲に留まっていた。日本という国に対するイメージも「先進国で、中国との関係が良くない国」という程度のものだった。でも日本に来てみて、日本人は親しみやすく、友好的、しかも明るく親切だということに気がついた。それに日本はとても美しい魅力的な国だった。

神戸市外国語大学で交流した時、私は日本人大学生の「Mさん」、「Kさん」と、中国と日本が両国の一般国民の生活に与える影響について討論した。その時分かったのだが、日本は「アニメ、コスメ、家電」などの分野で中国への影響力は相当なものだが、中国に対する日本人学生の反応を聞くと、まず出てくるのは「中華料理」だけなのである。このことから、中国はもっといろいろな分野で自身のレベルアップが必要で、それによって影響力と知名度を上げないといけないと思った。また、普通の日本人学生が中

国に興味を持ってもっと知りたいと思っている熱心な気持ちもすぐに伝わってきた。両国が交流する時には、メディアによって間違った方向に流されがちになるものだ。私たちはもっといろいろなやり方で日本の人々に中国の真の姿を理解してもらいたいと思う。表面的なことや社会や政治の動向に流されることがあってはならない。それこそが中日友好促進のための根本策だと思うのである。